

前市長のセクハラ問題を市議会で告発

2018年3月1日の市議会一般質問では、市情報公開請求資料と党の調査にもとづき、前市長による複数の女性職員に対するセクハラ問題を告発。市役所で働く人たちの人権を守り、安心して仕事ができる職場にしなければならない、その思いでの告発でした。



浸水被害のないまちに



令和元年東日本台風では、市内で大きな浸水被害が出ました。日本共産党市議団は二度と被害を出さないよう、排水ポンプや逆流防止ゲートの設置等を繰り返し要望。根川に逆流防止ゲートが設置されました。そして2028年に六郷排水樋管と猪方排水樋管に常設のポンプが整備されます。



西村あつ子さんを推薦します

矢野ゆたか(元狛江市長)



西村議員は、前市長のハラメントや予算私物化を議会で告発し、市民や職員とともに退陣させる力となりました。

今、みなさんと長年築いてきた市民本位の市政が崩されています。誰もが尊厳を持ち暮らせるまちへ、西村あつ子さんに期待します。

中和泉2丁目・30代子育てママ



西村さんは、自身の子育てや介護の経験を活かし政策提案をし、市民の相談に親身になって応えてくれる誠実な人です。共働きで子育て中の私は、西村さんが議会で繰り返し訴え実現させてきた子育て支援に何度も助けられました。「子どもたちの命を守り、健やかな成長を政治の責任として保障する」という決意で、18歳までの医療費無料や子育て支援の充実を掲げて頑張る姿に、期待しています。

連絡先

中和泉5-6-15
TEL.03-3480-2780
Mail:atsuko.n.0625@ray.ocn.ne.jp

狛江で育ち
子育ての声を市政に

- ・学校給食の無償化
- ・18歳までの医療費無償化
- ・学童クラブの増設
- ・少人数学級の実現・教職員の増員
- ・学校のトイレに生理用品の配備を
- ・市民・事業者への支援を継続・拡充
- ・国保税・介護保険料の負担軽減
- ・市民参加で中央図書館を充実



大軍拡・大增税 NO!

6期
24年

日本共産党 市議会議員

西村あつ子

民報こまえ

2023年2月号外 発行/狛江民報社 田岡恭子 連絡先/狛江市岩戸北1-10-6 甲武ビル103
日本共産党狛江市委員会は見解を発表しました。

子どもたちの笑顔が輝く狛江へ

子どもの医療費無料化の拡充を実現

1期目から子どもの医療費無料化の拡充を繰り返し求め、今期はまず小学1・2年生の所得制限撤廃と一部高校生生の医療費無料化を要望し実現。更なる拡充を求め、小学6年生まで拡充することができました。



ジェンダー平等

ひとりひとりの個性が活かされるまちに



性別にかかわらず学校の制服を選択できる学校が増えている中、女子生徒でもスラックスやネクタイの着用を自由に選択できるよう要望し、全校で選択が可能に。特別支援教育の推進では、中学校の情緒障がい固定学級の設置を求め三中に開設。気軽に使用できるよう、学校のトイレに生理用品の配備を求めています。

学生を応援

コロナ感染の拡大で生活が一変。大学生や専門学生等への給付金を求め、条件がありましたが「大学生生活・学業等応援給付金」で5万円の給付を実現しました。また市役所1階の市民食堂(ジャックポット)での安い食事の提供を求め、ワンコイン(500円)で学生応援メニューが開始されました。学生さんからは「値段が安くて美味しい」とリピーターもいて好評とのことです。

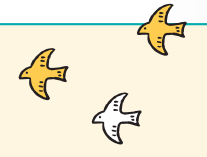


地域の声を実現へ

バス会社と交渉

「都営狛江団地」バス停設置

署名を集めて小田急バスに要望。狛江通りに「都営狛江団地」バス停が設置されました。



中和泉に信号機を設置

聞き取り調査を実施して

視覚障がいのお子さんがあるお母さんから信号機設置の要望が寄せられ、近隣への聞き取り調査をし調布警察へ要望。手押し信号機が設置されました。



私は1期目から、子育て支援の充実に取り組み、狛江市議会で初めて出産した女性議員として、母親の目線で子どもの医療費無料化や待機児解消、教育環境の整備に尽力してきました。

そして今期はコロナ感染の長期化、物価高騰の中でくらしや営業を守るために毎議会で市民生活支援に取り組んできました。これからもみなさんの声を議会に届けるために力を尽くします。

プロフィール

1966年東京都生まれ。こだま幼稚園、旧四小・旧八小、三中、都立高校卒業後、電気会社、デザイン会社を経て1999年から狛江市議(6期)。現在、議会運営委員会副委員長、総務文教常任委員、多摩川衛生組合議会議員。市議会副議長、保育園父母の会役員歴任。



日本共産党 市議会議員
西村 あつ子

西村あつ子の歩んだ道

いまでも思い出す父の言葉

世田谷生まれの西村さんは、2歳のとき両親と二人の兄の家族五人で、祖父が住む狛江市に転居しました。こだま幼稚園、旧四小・旧八小、三中に通いました。映画やテレビの編集技師だった父親のことが大好きな「お父さん子」だった西村さん。他界した父親は、忙しい仕事の合間にPTAや地域活動でがんばっていました。父親から



二人の兄、父と一緒に

「人はみんな平等、戦争は絶対にしてはいけない」と教わりました。その言葉が西村さんの原点です。

自ら特訓志願、苦手を克服

中学・高校と軟式テニス部に所属。活発な西村さんも水泳は苦手でした。小学校のクラスメートから泳げないことをからかわれて奮起。自分から夏休みのプール係に志願し夏休みに毎日のようにプールに通い、とうとう泳げるようになりました。高校時代はアルバイトで貯めたお金で自動車教習所に通った頑張り屋でした。

共産党は弱い人たちの味方



92年参院選で上田さんと

高校卒業後、電気関係の会社に就職。「お茶くみ、お使いは女子社員の仕事」という社内の風潮に疑問を感じた西村さんは、上司に申し入れて改善させました。知人の紹介で上田耕一郎共産党参院議員(当時)の選挙を手伝い「共産党は弱い人たちの味方なんだ」と実感し、共産党に入党しました。

忘れない「ありがとう」の笑顔 安心して暮らせるまちへ

99年から6期24年、地域の方々の身近な相談相手として、がんばってきました。1期目、最初の生活相談で身寄りのないおばあちゃんと一緒に住む部屋を必死に探しまわって解決。「ありがとう」といって安心した笑顔を見せてくれたことが今も忘れられません。市議会副議長も務め、議会運営の責任も担いました。誰もが安心して暮らせる市政をめざし引き続きがんばります。

